

平成25年度 埼玉県校外教育協会委嘱  
校外教育 研究紀要

保護者・地域社会との絆を深め、  
豊かな体験活動に取り組む児童の育成  
—思いやりの心を育てるための連携を通して—



寄居町立用土小学校

埼玉県大里郡寄居町用土2859

TEL 048-584-2004

# 1 はじめに

寄居町は、埼玉県北西部に位置し、町の中央を荒川が流れ、北部には関越自動車道が走っている。本校がある用土地域は恵まれた自然環境と長閑な田園地域が広がっている。地域は協力的で、年間を通して児童が参加する行事も多く行っている。また、見守り活動から広まった学校応援団「用土地区子どもを守る会」をはじめ地域との結びつきが強い学校でもある。本校の児童は、素直で明るく元気であり、物事に一生懸命取り組むことができる。

# 2 研究の概要

## (1) 研究の目的

- ① 体験活動を通して意欲的に取り組む児童を育てる。
- ② 地域の教育力を活用し、地域の一員であることを自覚する児童を育てる。
- ③ 交流や連携を通して思いやりの心を育む児童を育てる。

## (2) 研究の手立て

- ① 年間指導計画を見直し、体験活動の位置づけを明確にする。
- ② 地域の教育資源（人材、施設設備、組織等）を有効に活用する。
- ③ 用土地区子どもを守る会との積極的な連携を推進する。
- ④ 地域行事への児童の参加を進める。
- ⑤ 学校日より、学年日より等を活用して積極的に学校の情報を発信する。

## (3) 研究の概要

本校の教育に「寄居町らしさ」「用土でしか」といった寄居町や用土地域の特色を取り入れ、活かした体験活動を行う。さらに、体験活動を3つの視点に分類し積極的に推進することで、研究テーマに迫ることとした。

### ① 福祉の心を育む活動

寄居町社会福祉協議会や福祉ボランティア「かけはし」、老人福祉施設「花ぞの」等の協力をいただき、学校内外で思いやりの心を育む体験活動を行う。

### ② 地域との交流活動

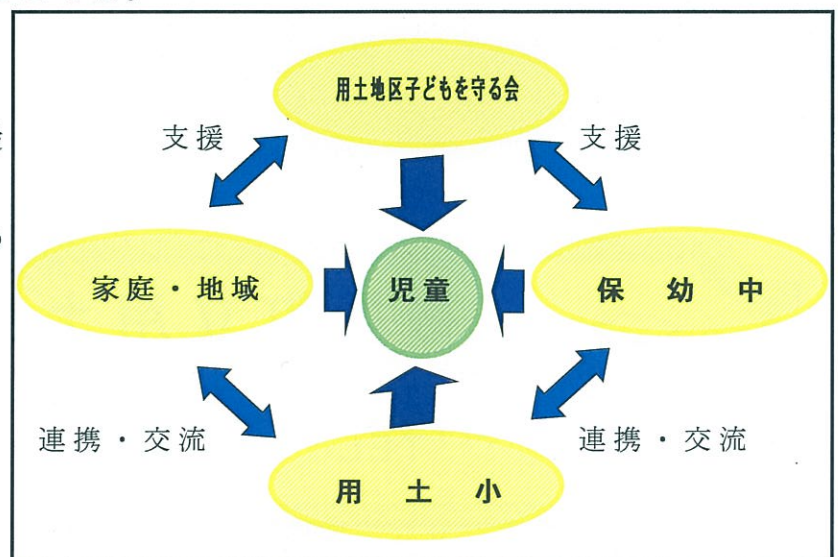
用土地域の植木農家や寄居町のみかん農家等の協力をいただき、体験や訪問を行い寄居町や用土地域を知る学習を進める。

### ③ 連携を意識した活動

寄居中学校区の保幼小中との連携、用土公民館や寄居町菊愛好会など地域との連携を進め、地域の一員だという自覚を高める。

## (4) 交流と連携の構想図

この構想図に基いて、研究を推進する。



### 3 研究の取組

#### ①福祉の心を育む活動

福祉に関する体験活動を通して、児童は障害のある方との関わりや今、自分ができることについて考えたり、地域や自分を大切にして生きていこうとする態度を育てることを目的に、生活科と総合的な学習の時間を活用し、6年間で系統的に継続的に取り組んでいる。また、福祉に関する体験活動を行うにあたり、道徳（「心のノート」）、家庭科、社会科の関連する単元で事前事後学習を行っている。



3年 手話教室



4年 点字教室



5年 老人福祉施設訪問



6年 車椅子体験



6年 車椅子体験事前研修



敬老会への参加

この福祉に関する体験活動を行って行くことで、卒業してからも施設を訪問する児童が増えている。

#### ②地域との交流活動

自分たちの住んでいる寄居町や用土地域に関心を持ち、地域への愛着心を育て、地域との関わりを積極的に持とうとする。児童は、地域を自分の足で歩くことで寄居町や用土地域に関する自分なりに課題を見つけることができ、情報収集や課題解決する力が培われてきている。道徳（「心のノート」）や社会科に関連づけて事前事後の学習に役立っている。



鉢形歴史館ボランティアとの交流



昔のあそび



繭玉人形づくり



用土地域の町探検



桜の植樹活動



用土駅緑の羽根募金活動

### ③連携を意識した活動

各種機関との連携や地域の行事に参加することで、地域の一員としての自覚が生まれてきている。また、小中教職員研修会等を通して教職員が共通理解を図り、幼小中の橋渡しができ、一貫した指導を行うことができる。



保育所訪問（用土保育所） 保育所との交流（用土保育所） 七つのお祝い（用土公民館）



部活動見学（寄居中）



中学生生活説明会（寄居中）



菊作り（菊花愛好会）

## 4 研究の成果と課題

### 研究の成果

- ・体験を行うことで、新たな体験へ進むための興味関心が高まった。
- ・地域との交流や連携を図ることで、地域の一員であるという自覚ができた。
- ・体験活動をやり終えていくことで成就感と達成感が高まり、自信が生まれてきた。
- ・一つの体験活動を取り組むことで児童同士の連帯感が高まった。

### 研究の課題

- ・受け入れている福祉施設の入所者が高齢化で受け入れが難しくなっている。
- ・体験活動の事前事後学習が十分取れないため、児童が本来学ばなければ学習ができない。
- ・継続的な体験活動を行うために、指導者の育成が急務である。